

☆学力テストから分かること☆

4 月に 6 年生対象に実施した全国学力・学習状況調査の結果を分析し、傾向をまとめたものです。

〔よかったところを○、課題のあるところを●で表しています。〕

国語

○俳句の情景をとらえる。

○目的や意図に応じて、適切な文章を選ぶ。

●記述問題は正答率が低い。※特に条件が複数付いている問題

●漢字を書く。※特に中学年の配当漢字

改善に向けての手立て

「城東っ子の詩」の取り組みを今後も続けていき、児童の言語環境をより充実させたいと考えています。授業の中で、自分の考えをまとめたり、比較したりすることで、考えを深められるようにしていきます。文章を書くことに慣れ親しめるように、低学年から積み重ねていきたいと思います。児童が楽しみながら書けるように工夫していきます。漢字の定着を図るために、学習時間を確保し、定期的に復習する機会を設定していきます。

算数

○計算問題（小数のかけ算とたし算、整数どうしのわり算を分数で表す問題）

○最小公倍数を求める。

○三角形の底辺に対応する高さを選んだり、四角形を並べてできる図形を選んだり、図形の問題は比較的正答率が高い。

●無解答率が全国平均よりやや高い。

●理由を「言葉」や「数」を使って説明する問題に課題がある。

改善に向けての手立て

引き続き、授業の始めに基礎的な計算をする時間を設定し、習熟を図ります。既習の内容を復習しながら、新しい問題を自分で解決する時間を十分に確保していきます。問題を解いた過程を図や式で説明したり、交流したりする活動を増やしたいと思います。

児童質問紙

〈学習面〉

- 国語・算数の勉強は大切だと思っており、宿題もしている。
- 国語の授業はよく分かると答えている児童が多い。
- 好きな授業があると答えている児童が多い。
- 家庭で、自学自習・予習復習をしている児童は少ない。
- 新しい課題に取り組むときに、途中で諦めてしまう児童が多い。
- 授業で発表の機会が多くあったと答えている児童は少ない。

〈生活面〉

- 将来の夢や目標を持っている児童が多い。
- 読書が好きである。
- テレビやゲーム、携帯電話などの端末を長時間使っている児童が多い。
- 寝る時間が遅い児童が多い。
- 自分にはよいところがあると思っている児童が少ない。

自己有用感を高める取り組み

自己有用感って？

「自分は頼りにされている」「自分は誰かの役に立っている」という感情

城東小学校では、異年齢交流（たてわり活動など）を中心として児童の自己有用感を高める取り組みを行っています。児童が取り組む前には、めあてを確認し、取り組んだ結果を認めていき、次の機会につなげられるようにしています。

改善に向けての手立て

朝読や黙想（立腰）を引き続き行っていきます。1日を静かな時間から始め、心を落ち着かせて下校できることが児童の成長に大きく関わっていると考えています。

児童が進んで学習する習慣をつけるために、自主学習ノート（JTK ノート）に引き続き取り組みます。また、家庭学習週間（JTK ウィーク）は中学校の定期テストの期間と連動して行います。城東小学校だけでなく、近隣の学校園とともに子どもたちの家庭学習を支援していきたいと考えています。

ご家庭でも、裏面の家庭学習の手引きをご覧ください、ご協力いただければありがたいです。どうぞよろしくお願いいたします。